

7月

カトリック麹町教会

MAGIS
Ignatiusoo
マジス = 「より、もっと、さらに」



イグナチオ年

教会テーマ

イエスがたたく希望の扉をひらいていこう 新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ



聖イグナチオと私
昔から知っていたかのように…
SJハウス院長 ホアン・アイダル神父

私と聖イグナチオの関
係は、実は19世紀から始まっ
ているのです。1899年に
ミラノで生まれた私の祖母
は、聖イグナチオをたいへ
ん崇敬していました。この
祖母は当時、結婚するには
ちよつと遅いと思われていた
29歳で結婚しました。子ど
もができない不安を持って
いた彼女は、「もし男の子
を授かったら、イエズス会に
入るように祈ります」と、
聖イグナチオに約束したそ
うです。聖イグナチオは彼
女の祈りを聞き入れ、その
結果、祖母は男の子4人
を含む、7人の子どもを授
かりました。当初、誰ひと
りとして、イエズス会に入
ろうと思いませんでしたが、

その後、私が家族の中で最
初の修道者となりました。

当時、アルゼンチンには
イエズス会が運営する2つ
の中等教育機関があり、私
はそのうちの一つに通って
いました。その学校の先生や
友人、勉強、建物、そし
て壁の匂いを含むすべてが、
私は大好きでした。高校を
卒業した時、神さまが私を
修道生活に招いていること
を感じたのですが、イエズ
ス会以外の修道会には見向
きもしませんでした。

そして私は初めて、聖
イグナチオの生涯について
詳しく知るようになりま
した。聖アウグスティヌス
は、キリスト教に
改宗して、初めて
キリストに出会っ
た時、旧知の友
人に再会したよう
な印象を受けたと
言っています。レ
ベルが多少異なり

ますが、私と聖イグナチ
オとの関係は、少しそれ
に似たところがあると感じ
ています。彼の伝記を読
み、彼の著作に触れた時
私は彼を昔から知っていた
かのように思えたのです。
そしてイエズス会について
も、それと同じように感じ
ています。聖イグナチオが
創設したイエズス会とい
う修道会の最も魅力的なこ
ろは、祈りと行動、勉強、
共同生活、人と神との関係
性など、すなわち「大切
なものすべて大切にす
るところです。ある人が教皇
フランシスコを評して「地
に足をつけて、心は天にあ
る人」だと言いました。そ
れは聖イグナチオとイエズ
ス会のあるべき姿の定義と
して、とてもふさわしいも
のだと思います。

一方、私が聖イグナチオ
に最も惹かれる点は、聖イ
グナチオの「神への限りな
い愛」です。聖イグナチオ
は、自分が神に対して十分
なことをした、十分な愛
を捧げたと思ったことがな
い人です。ですから、彼は
回心をやめませんでした。

そして、神は寛大さにおい
て、決して聖イグナチオに
負けたことはなかったです。
イエスの聖テレサは、この
神と聖イグナチオの関係を
適切に表現した言葉を残し
ています。「神は、自らを
神に完全に与える者に、
自らを完全に与える」と述
べています。聖イグナチオ
の人生は、神はいつも私た
ちが考えるより善良で、い
つも私たちが考えるより慈
悲深く、私たちが考えるよ
り、より美しい存在である
ことを証しました。それよ
り意味のある人生はおそら
くないでしょう。天国で聖
イグナチオに会うのをとて
も楽しみにしています。

教会報 MAGIS 7月号

† 第2回年次活動報告会	P2-3
† オンライン講座 『聖イグナチオの霊操』	P4
† 「イグナチオ年」を過ごして…	P5
† 「ロクス号」とチャリティーイベント	P5
† 特別寄稿「聖イグナチオと私」	P6

【7月の共同祈願】

ウクライナへの侵攻から5ヶ月が経ちます。

主は、平和を望んでおられます。

現地の人々の厳しい状況に心を寄せ、

これからもできることを行えますように。

担当：真和会

【ミッション 2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見出しにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、若いも若きも)、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

第2回年次活動報告会

「シノドス(ともに歩む)に向け、みんなでつどう」をテーマに

6月11日(土)15時よりヨセフホールにて、第2回年次活動報告会が対面とオンラインの併用で開かれました。参加者は350名で、主任司祭のサトル・オチョア神父の講話から始まり、助任司祭から担当の仕事の紹介、各担当者からは昨年度の活動報告、今年度の活動計画と会計報告が行われました。以下、その要旨を掲載します。

オチョア神父の講話

「シノドス」と7つの呼びかけ

フランシスコ教皇の呼びかけで、2023年10月の世界代表司教会議第16回通常総会に向けて、これから教会のあるべき姿を考える「シノドス」が始まりました。「シノドス」はギリシャ語で、「シ」は「ともに」、「合」を「ドス」は「道」を意味する。「オドス」は「道」。違いがあっても同じ道を歩むという意味です。教会は単なる建物ではなく、いつも歩み続け、旅をしています。遊牧民の文化と同じで、家を持たずにテントを張り、今日はここにいて明日は旅立ちます。詩篇23篇にあるように、主の家に住むまで、生きている限り

憩う権利はなく歩む権利があります。司祭、シスター、子ども、高齢者、障がい者など、神の民は多様性に富んでいて一緒に歩みます。これは簡単ではないかもしれませんが、どこに力を入れていけばいいのか、7つのヒントを参考にしてください。

① 典礼

待降節第一主日(11月27日)より典礼が変更になります。高齢者は慣れるまで時間がかかるかもしれませんが、個人としてではなく、神の民として祈り、歌いましょう。

② 召命

大きな問題です。一般信徒でも召命があります。特に、学校教育において大き

な影響をおよぼすかもしれません。

③ 女性

教会の中で女性の役割はより強くなっていますが、うまく実っていません。前任の福岡では女性の指導者でしたが、指導されたのは私でした。

④ 教育

コロナ禍によりデジタル文化は加速し、特に小学生にはうまく機能していないようです。コミュニケーションが足りず、いじめやプライバシーの侵害も問題です。

⑤ 癒し、孤独

コロナ禍でより孤独感を抱く人がいます。ひとり暮らしの方や高齢者をどう癒すかが課題です。

⑥ 高齢者の社会

もっとも大きな課題です。



高齢者の方たちは教会の宝です。ゆとりがあり、経験もあります。それを生かさないといけません。

⑦ 移民

当教会でも外国人の信徒が増えています。どのように受け入れ、一緒に歩いていくかを考えましょう。

どのヒントも個別に考えることはできません。召命と高齢者、癒しと典礼など、常にくっつきが密接につながっています。同時に考えていきましょう。自分の経験や考え方をふまえて意見を出し合い、いろいろなことを実現できたら幸いです。

新任挨拶とお話

グエン・タン・ニャー神父 2020年から協力司祭として、今年の復活祭以降から助任司祭となりました。この教会に集まるベトナム人共同体の世話が主な仕事です。コロナ禍以前は毎回のミサに与っていた1000人以上の若者のため、この4月からアン・ベトセンターを開設しました。また、昨年からミサの世話役の若者120名ほどに教

会の一員として、馬小屋の作成などを通して関わってもっています。

助任司祭より

ボニー・ジェームス神父

教会学校やジョン・デ・ブリット・イングリッシュセンターを担当。英語圏の共同体は現在17グループありますが、さまざまな言語・文化の人がいて「シノドス」そのもので、違いをポジティブな面で活かしていけるやり方がある仕事です。今まで外国人共同体には教会の出版物が行き渡っておらず、まずはコミュニケーションからと考えています。コロナ禍でも国際青年会は各自のタレントを活かして活動していたので、今後は未来ある若者・外国人と一緒に歩んでいきたいと思っています。

柴田潔神父

4月に実父を亡くしたことで人生の最後に寄り添う気持ちが強まりました。教会学校担当者としては、夏のキャンプに向け準備を始め、初聖体を受けた子どもたちが侍者として奉仕する指導をしています。典礼は



▲左からボニー神父・ニャー神父・柴田神父

人数を増やしていくにはまだ警戒が必要と考えます。4月から岐部ホールの責任者になり、エレベーターが停止した場合に備えて防災・備蓄セットを各司祭の部屋に配置しました。ロシア軍のウクライナ侵攻も含め、平和を考える一年にしたいです。

2021年度活動報告

前信徒代表 瀧田かよ子

前年同様コロナ禍に振り回された一年でしたが、新しい形でさまざまな取り組みを行うことができました。一年遅れで行われた「ミッション2030」の4本目の柱「新しい協働」のもとで全6回のフォーラムが開催されました。

5月20日から始まった「イグナチオ年」では、オンラインによる「霊操」の学びが開始されました(詳細はP4参照)。また10月には「イグナチオ年を祝う」をテーマにインターナショナルミサを行い、編集技術を駆使した教会祭も行われました。恒例の秋の黙想会では「聖イグナチオに見る人とのつながり」希望の扉を開くために「」をテーマに、ニャー神父、柴田神父からご指導いただきました。

2022年度活動計画

信徒代表 齋藤順子

コロナ禍で様々な試練がありました。教会活動を再開し共に歩む時がきました。7月30日(土)午後、「イグナチオ年」の最後にレンゾ管区長の講演とミサを準備しています。また待降節第一主日からミサ式次第が一部変更となります。そして、「2023年ワールドユースデー(WYD)リスボン大会」(ポルトガル)への派遣に向けて、準備が始まります。

2017年から始まった「ミッション2030」は、促進チームが当初の役割を終

え解散しました。この4つの柱は「シノドス」に向けてフランシスコ教皇が発したテーマを先取りしているもので、これを基本に新しい促進チームを作り継続していきます。先日、宣教司牧評議会からそのための準備会委員を指名しました。今後、この準備会に国際グループなど幅広くメンバーを招へいし、新しい促進チームを作る準備をします。

並行して教会内で活動しているグループに改めて登録を呼びかけ、登録済みのグループについては今後も見直しおよび再編し、さらなる充実を図ります。また教会活動連絡会議が単なる報告会になっている現状から



も脱却していきたいです。パイオルガンの修繕が、8月8日から9月6日まで実施されます。これに伴い、主聖堂は閉鎖されますが、主日ミサ(含む土曜18時ミサ)、8月15日(月)聖母被昇天ミサ、9月3日(土)12時高齢者ミサは主聖堂で行われます。

2021年度会計報告

財務委員長 内田正

2021年度の会計報告が5月後半の財務委員会で承認されました。詳細は後日郵送予定です。今後の教会活動再開に向けて、皆さまからの協力で財務は健全な状態にあります。

主な収入たる教会維持費(月定献金)は前年より微増です。支出としては活動費の支出を抑えていただき感謝します。またミサ回数の減少により、ミサ献金・祭事費(典礼費)・行事費・光熱費ともにコロナ前より減少しました。

◇ 「第2回年次活動報告会」は、質疑応答をもって閉会しました。



まだ間に合う！ オンライン講座 『聖イグナチオの霊操』



2021年5月20日(パンプローナでの負傷の記念日)に開始した「イグナチオ年」も、2022年7月31日に終了します。この間、聖イグナチオ教会でもさまざまな取り組みをしてきました。英隆一朗神父、柴田潔神父、マヌエル・シルゴ神父が輪講形式で聖イグナチオ・デ・ロヨラの『霊操』を解説する動画もその一つです。講座はすべての回が出揃い、現在、YouTubeで公開中です。どの講座からでも視聴が可能ですので、気になる講座から、学んでみませんか。

●視聴方法●

① QRコードを使ってすべての回の一覧へ

右のQRコードをスマートフォンのカメラや専用のアプリで読み込むと、YouTubeの『聖イグナチオの霊操』すべての回にアクセスできます。

② チラシを使って各回に直接アクセス

聖堂入り口や事務室前に、QRコードが入ったチラシが配架されています。各回に直接アクセスできますので、ご活用ください。

③ 教会のサイトからは、テキストのダウンロードが可能

聖イグナチオ教会のサイト「『聖イグナチオの霊操』の学び」ページからアクセスすることも可能です。各回のテキストもダウンロードすることができます。

すべての回に
アクセスできる
QRコード



オンラインで学ぶ聖イグナチオの霊操 YouTube 配信

●「聖イグナチオの霊操」第1回～第46回 各テーマリスト●

		各テーマ	講師			各テーマ	講師
第1回	準備	黙想の仕方	Fr. 英	第24回	第2週	荒れ野の誘惑	Fr. 英
第2回		内的な味わい	Fr. 柴田	第25回		弟子の召し出し	Fr. シルゴ
第3回		霊操の目的	Fr. シルゴ	第26回		イエスのいやしの業	Fr. 柴田
第4回	原理と基礎	創造の目的	Fr. 英	第27回		山上の説教	Fr. 英
第5回		被造物の意味	Fr. 柴田	第28回		イエスのご降誕	Fr. シルゴ
第6回		不偏心	Fr. シルゴ	第29回		弟子の派遣	Fr. 柴田
第7回	U A P s	よりよい選び	Fr. 英	第30回		イエスの奇跡	Fr. 英
第8回		排除される人とともに	Fr. 柴田	第31回		霊的識別	Fr. シルゴ
第9回		若者ととともに	Fr. 柴田	第32回		イエスの決意	Fr. 柴田
第10回	第1週	自然とともに	Fr. シルゴ	第33回		謙遜の3段階	Fr. シルゴ
第11回		意識の究明	Fr. 英	第34回		選定	Fr. 英
第12回		原理と基礎(復習)	Fr. 英	第35回		生活の刷新	Fr. 柴田
第13回	第2週	アダムとエバの罪	Fr. シルゴ	第36回		最後の晩餐	Fr. シルゴ
第14回		この世の罪	Fr. 柴田	第37回		ゲッセマネの園	Fr. 英
第15回		罪の歴史	Fr. 英	第38回		最高法院の裁判とペトロ	Fr. 柴田
第16回	第3週	罪を見つめる(反復)	Fr. シルゴ	第39回		ピラトの裁判と死刑判決	Fr. シルゴ
第17回		罪のゆるし	Fr. 柴田	第40回		十字架の道行き	Fr. 英
第18回		キリストの国	Fr. 英	第41回		十字架上のイエス	Fr. 柴田
第19回	第4週	聖母へのお告げ	Fr. シルゴ	第42回		イエスの死と葬り	Fr. シルゴ
第20回		イエスの幼年時代	Fr. 柴田	第43回		マグダラのマリアへの出現	Fr. 英
第21回		2つの旗	Fr. 英	第44回		エマオへの弟子	Fr. 柴田
第22回	第2週	3組の人	Fr. シルゴ	第45回		不思議な大漁	Fr. シルゴ
第23回		イエスの洗礼	Fr. 柴田	第46回		愛を求める観想	Fr. 英



信徒に聴く 「イグナチオ年」を過ごして…

「イグナチオ年」にあたり、聖イグナチオ教会でもさまざまな学びの機会を設けました。そうした講座を通し、聖イグナチオの精神をどのように深めていかれたのか、心の足跡を信徒の方々に伺いました。

◆「日常生活の霊操」クラス

弱い部分を慈しみながら

聖イグナチオの霊性にはじめて触れたのは、2007年スペイン巡礼でのこと。まだその時には、聖イグナチオという人物を知ったにすぎず、特に自分との関わりがあるとは考えていませんでした。しかし、それから数年経ったある日、教会で行われた黙想会での体験が、私を聖イグナチオと出会わせていきます。

私はいつも人の役に立ちたい、そう願う気持ち強い性質を持っていました(今も変わりませんが)。しかし、その黙想会で、私の中に沸いたのは、人の役に立ちたいという想いは、実は

自己顕示欲なのでは? 情けないというか、何かが音をたてて崩れていくようにでしたが、それはそれで不快ではありませんでした。

黙想会の直後くらいから、「イグナチオ年」が始まり、より一層、聖イグナチオを意識するようになっていきました。霊操を通して私を励まし続けているのは、自分の性格を長所や短所と捉えるのではなく、神さまの愛にどう応え、生きていくのかと問い続けること。短所は今や私にとって慈しみの対象となりました。これからも弱い部分を慈しみながら仕える感謝を深めていきたい、そう思っています。(アンナ・フランチェスカ)

◆聖イグナチオの生き方を学ぶ講座 神の視点を意識する

テキスト『イグナチオの足跡をたどって』(夢窓庵刊)を毎月3章ずつ読みふりかえりを行い、講座で分ち合いました。ヘルパーの方が聖イグナチオの歩みを

要約・解説してくださり、頭を整理できました。講座の後半は聖書を観想(聖書に描かれている場面に自分もいるように五感を使って想うこと)。シスターの朗読を目を閉じて聴き、味わい、祈り、心に感じたことを分かち合いました。その後、シスターが時にはご自身の体験談も入れてコメントしてくださり、分かち合うたことをより深めることができました。テキストや自叙伝を通して聖イグナチオが情熱的に主を愛し全幅の信頼をもって奉獻し、仲間を作り、巡礼の道を歩まれたことを知りました。

講座で「神さまの視点を意識する」ことを学び、それが日常生活の中で、良いことができた時は喜びだけでなく「聖霊が働いてくださった」と素直に感謝、不安で苦しい時は「お委ね」し神さまの照らしと導きを感じ勇氣を得ることにつながったように思います。また、観想の体験は、イエスさま、マリアさまや弟子たちの息遣いまで感じ、深く心を動かされました。(クララ)

●●●「ロクスひよりやま」チャリティイベント●●● 共に出向いていく教会を 中井淳神父(イエズス会)

下関労働教育センターで、コロナ禍で始めた子どもとみんな食堂「ロクスひよりやま」は、待っているだけでは本当に必要としている人には届かないと、キッチンカー「ロクス号」を仲間として加えることになり、下関、近隣地域で待っている人たちのところへ出向いています。持っているものを分かち合い、支えあう社会を作っていくためには、ネットワークを広げることが大切だということで、今回、その思いを分かち合うこと、応援をお願いすることを目的に、聖イグナチオ教会にロクス

号を連れてやってきました。企画の段階から協力してくださった評議員の方々をはじめ、手伝ってくださった方々、聖堂の前で待っているロクス号に笑顔で寄って来てくださった方々に心から感謝します。

午後には、子ども食堂の状況と私たちの活動について報告させていただきました。コロナ禍で生まれてきた曲をお届けするトークライブの時間を持ちました。配信されたミサ中のアナウンスで知ったと、遠方からも駆けつけてくれた方々、目を潤ませながら感想を伝えてくださった方にこちらも胸が温かくなりました。そして、久しぶりに会う懐かしい人たちに、大学生まで過ごした聖イグナチオ教会での思い出がよみがえり、愛を受けて生きてきたのだから、心から感謝です。



▲キッチンカー「ロクス号」と筆者



▲トークライブでオリジナル曲を熱唱した聖イグナチオ教会での思い出がよみがえり、愛を受けて生きてきたのだから、心から感謝です。

Ignatius 800
イグナチオ年

〈特別寄稿〉 聖イグナチオと私
私のささやかな『靈操』体験

司祭・上智大学史学科教授 川村 信三

イエズス会に入会すると、一年以内に一回、十数年後、養成段階の仕上げに一回、生涯二回にわたりイグナチオ・デ・ロヨラの『靈操』の手ほどきをうけます。

「靈操」とは、聖イグナチオの自らの回心体験を、他の人々が追体験できるように30日の実践マニュアルとして書きのこされたものですが、ここでは、私が体験した「靈操」のすこさをお伝えしようと思います。

「あなたはここに居てかまわない…」と

まだ20代の前半、イエズス会に入会してから数カ月たったころ、秋の「大黙想」でいよいよ「靈操」を体験する時となりました。ただ、私はその方法にきわめて懐疑的でした。確かに聖イグナチオはその方法で回心を得たかもしれませんが、それをシステム化し、プログラムとしていくらなぞっても同じ結果が生じるとはかぎらない。そう思って高をくくっていたからです。

修練長の指導のもといや応なくその時はやってきました。そして、驚くべきことに一週間もたたずして、これまで無造作にページをめくるだけだった「聖書」のなかのイエス・キリストの言葉が身近に感じとれるようになりはじめました。

そして、忘れもしません。

秋のある朝、突如として、「あなたはここに居てかまわない。私が呼んだのだから」という声にならぬ声をはつきりと聴いた気がしたのです。それは、常に不安にかられ自分の心のなかで繰り返していた問いの「答え」でした。すると、「どんなことがあるうとここにどどまろう」という勇気が溢れてくるように感じられました。「靈操」の力を信じていなかった自分の傲慢を痛烈に感じた瞬間でもありました。あの体験がなければ、今、この原稿を書いている自分はいなかったと思います。

「靈操」とは
「イエスの言葉と行い」を見つめ、ひきつけられる体験

「靈操」とは、言い換えれば、聖書に描かれた「イエスの言葉と行い」を見つめ、



▲修練院の御心のイエス像

ひきつけられる体験だといえます。しかも、生涯をこれから共に歩む伴侶としてのイエスを強くそしてリアルに意識させるものです。

聖イグナチオは、「靈操」のヒントを、14世紀ネーデルランドに生じた「信徒運動」、デボチオ・モデルナの「黙想」の方法から得ています。

その信徒たちがめざしたのは「キリストに倣う」(イミタチオ・クリステイ)という態度でした。すなわち、この世に実際に生きられたイエスの言葉と行動を深く知り、ともに生きて行こうと決意することこそ重要だと気づいた人々の工夫のあらわれです。従来、修道院内の修道者だけが独占していた「キリスト者」としての生き方を、信徒であっても実現できることをデボチオ・モデルナの熱心な男女の信

徒は示したわけですが。

「靈操」は、カトリック信者だけのものではありません。キリストに倣おうとするすべてのキリスト者のものです。「靈操」は福音書に近づく最高の方法です。カトリック以外のキリスト教徒にも歓迎されるものです。その意味ではエキクメニカルな「和解」の道も示しています。

「お前はここに居てよい」というイエスの声を聴いたと感じた私は、その後、紆余曲折、失敗だらけの40年を生きています。しかし、あの「声」が若き日の「空耳(そらみみ)」であったとしても、私のその後の生涯は、たしかに「幸せ」な日々であったと断言できます。





Family of St. Ignatius

～英語圏から～

「私の子羊を飼いなさい!」パートII

6月号に引き続き、7月号では、「エンジェルス」グループをご紹介します。

「エンジェルス」グループは、パンデミックのため、活動再開までの1年以上の間、ビデオ制作を行った後、復帰しました。では、いつもは何をしているのでしょうか?

ミサの間、ことばの典礼が始まると、6～12歳の子どもたちを集め、ザビエル聖堂に連れていき、み言葉をより初歩的な言葉で説明します。司祭の説教の後、祝福を受けるため聖堂に戻ります。マリアさまの月には、できるだけ、始めに庭のマリア像でマリアさまへの愛を示し、御子のもとへ導いて頂けるようお願いしています。

聖書の一説に、「イエスはペトロに言った。『私の子羊を飼いなさい』(ヨハネ21章15節)今まさにこれは私たちにに向けて語られています。

私たちは、教会の未来のために奉仕しなければなりません。

●レンゾ・デ・ルカ管区長記念講演とミサ●



7月31日(日)の聖イグナチオの祝日をもって「イグナチオ年」が閉幕します。その締めくくりとして、「イグナチオ年」をふり返り私たちの教会の未来につなげる企画です。

日時：7月30日(土) 14:30～17:00

場所：主聖堂

講師：レンゾ・デ・ルカ神父(イエズス会日本管区長)

テーマ：「イグナチオ年」をふり返って

—聖イグナチオ教会の担う役割—

講演 14:30～15:45

ミサ 16:00～17:00 *ミサは講演参加者のみ

定員：200名(先着順) 定員に達し次第締め切ります。

申込方法：教会ホームページよりインターネット

(ネット接続困難な方は、事務所にて所定の申し込み用紙記入)

申込期間：7月9日(土)～7月23日(土)

* YouTube 配信もあります。

* 詳しくは、教会ホームページ、ポスターでご確認ください。

●カレーの会からのお願い●

カレーの会では生活困窮者へ毎週月曜日、テイクアウト形式でカレー弁当を配布しています。昨年は延べ1万人以上の方が受け取りました。皆様から各種ご寄付をいただき、スタッフ一同、心より御礼申し上げます。

毎回35kg以上の米を炊きますが、今その米が不足しています。皆様から無洗米のご寄付をお待ちしています。よろしくお願いたします。

●6月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

(6月2日開催)

1. 承認事項

ミッション2030を推進してゆく新たな組織の準備委員会として候補者7名、担当信徒評議員より4名が承認されました。これから外国語圏、若い世代など幅広い層から正式メンバーを集め、正式名称も決まります。

2. 報告事項

・5月22日の教会活動連絡会議において、2022年度の教会活動連絡会議幹事4名が選挙により選任されました。

・教会学校の子どもたちと父母会によるウクライナ支援のための特製トートバック頒布会が、復活祭と初聖体の両主日に行われました。794,639円が「イエズス会難民サービス(JRS)」ローマ本部に送金されます。

●主聖堂パイプオルガンオーバーホール●

主聖堂のパイプオルガンは設置から20年以上が経ちます。これまで維持管理のメンテナンスは定期実施して来ましたが、この度完全分解による点検整備を行うことになりました。

オーバーホール期間：8月8日(月)～9月6日(火)

期間中主聖堂は閉鎖しますが、土曜18時ミサ、日曜日各ミサと8月15日(月)聖母被昇天ミサ、9月3日(土)12時高齢者ミサは主聖堂で行います。平日の聖体礼拝はマリア聖堂になります。皆さまのご協力をお願いいたします。

●教会施設“修繕・保全報告”●

教会施設の2021年度修繕・保全の主な実施内容と本年度計画についてご報告いたします。

1. 2021年度実施状況

コロナ禍による財政苦境を受け、必要な修繕・保全のみを計画実施。

1) 建築関係

・マリア聖堂排煙窓作動機器修繕

2) 空調設備関係

・冷却水ポンプ3台修繕

3) 消防器具

・消火ホース(26本)更新

4) ITインフラ(インターネット通信回線)整備

・主聖堂、ザビエル聖堂、マリア聖堂、信徒会館各所へのLAN設備増設及び更新

この他、予定外の修繕・保全としてマリア聖堂空調制御部品交換、地下雨水槽排水ポンプ更新、主聖堂音声ライン新規敷設、主聖堂スピーカーのオーバーホールを予算外で実施しました。予算1,700万円(税込)に対し、費用実額は1,592万円(税込)でした。

2. 2022年度実施計画

1) 空調設備

・AHU(空気調和機)4台の加湿装置更新

・AHU1台の内外装錆修繕

2) 消防設備

・自動火災報知設備更新

3) 音響設備

・マリア聖堂、ヨセフホール音響設備更新

以上、3件を計画しています。AHUはエアハンドリングユニットと呼ばれる各区画へ冷温風を作り送風する機械です。2)3)は設置から20年以上経過、不具合が発生しているので更新します。予算は2,650万円(税込)を計上しています。

施設委員会

7月の典礼と行事

1 (金)	福者ベトロ岐部と 187殉教者の記念日 初金曜日	
9 (土)		2021年度合同追悼ミサ(第1回 非公開ミサ) 10:00 主聖堂
10 (日)	年間第15主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 新受洗者・転入者のためのオリエンテーション 10:00 ヨセフホール
16 (土)		新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:30 ヨセフホール
17 (日)	年間第16主日	幼児洗礼式(第1回) 10:00 ミサ
22 (金)		聖イグナチオの取り次ぎを願う9日間の祈り(7月30日まで)
24 (日)	年間第17主日	教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール
30 (土)		「イグナチオ年」記念講演とミサ 14:30 ~ 主聖堂
31 (日)	年間第18主日 ロヨラの聖イグナチオの記念日	ロヨラの聖イグナチオの記念ミサ インターナショナル・イグナチアンユースデー

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：サトルニノ・オチョア

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間 Mass

【平日 Weekday】

7:00 (聖体顕示) 主聖堂 Main Chapel

12:00/18:00 (ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認)

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Việt Nam) /16:30 (English)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック